

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部

救援ニュース 第3号 (2011. 5. 15 発行)

【発行責任者】東日本大震災聴覚障害者救援中央本部 事務副総括 中村慎策

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル 8階 財団法人全日本聾唖連盟内

TEL: 03-3268-8847 FAX: 03-3267-3445 <http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/>

☆救援中央本部長挨拶

～東日本大震災から2カ月…美しい日本の復興を祈って～

あの未曾有の東日本大震災から2カ月経ちました。被災地の皆様、心よりお見舞い申し上げます。今回は大地震だけではなく大津波、原発事故という被害の大きさに言葉ありません。

先日、東北3県被災地を回り、美しい東北の風景、街並みが瓦礫と化した惨状を目のあたりにし立ちすくむ思いでした。被災者の体験を聞くことができたといえ、生活資金確保すら非常に厳しいものです。元通りの暮らしを強く求めています。

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部は多くの協力団体の皆様と、被災地の情報収集、物資支援、メンタルケアチームの派遣などを進めてきています。この大災害で若者をはじめ、あらゆる人々が助けあい、人々のつながりを大切にすることの意義を私どもは再確認しました。また義援金も大変不足していますので引き続き、ご協力をお願いします。

長期的な取り組みになるこの支援、今後とも皆様のご理解とご協力をいただき、共に前進してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

一緒にがんばろう！

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部長 石野 富志三郎

☆石野本部長らが東北3県を訪問、激励

5/2～5、石野本部長、中村事務副総括らは東北3県の救援本部を訪問し、現地を視察し、現地本部の方々や被災された方々を激励してきました。その経過報告を簡単にまとめたものを以下に掲載します。



5/2 (月)

救援福島県本部を訪問し、活動支援金、三重県ろう協会女性部からの千羽鶴、本部事務所 から寄せ書きを贈呈。

5/3 (火・祝)

午前中、宮城県庁を訪問し、保健福祉部障害福祉課課長補佐に①情報提供施設設立②手話通訳者設置③ろうあ者相談員派遣要請についての要望をまとめた県知事あて要望書を渡し、懇談。



午後は、岩沼地域避難所（岩沼市総合体育館）を訪問。一組の聴覚障害者夫婦がおり、

家は全壊し、9日には仮設住宅へ移動する予定とのこと。

その後、体育館近くの福祉施設の広場で行われた岩沼地域のろう者の集会に参加。天候もよく約50人が集まり、石野本部長のあいさつ、連絡事項等の情報伝達、物資配布を行う。全員久しぶりの会合らしくこうして集まるのは震災後初めてで、サロンのような雰囲気のなか



で、話ができることを喜んでおり、まさに手話の花が満開。夕方、救援宮城本部のミーティングに参加し、活動支援金、本部事務所寄せ書き贈呈。



5/4（水・祝）
午前、女川を視察。石巻市蛇田運動総合公園での

石巻地域のろう者の集会に参加。ここでも、会場確保ができず屋外での集会。参加者約30人。石野本部長のあいさつ、連絡事項等の情報伝達、物資配布を行った後、参加者の話をいろいろ聞く。



午後、JDFみやぎ支援センターを訪問し、活動支援金を贈呈。

5/5（木・祝）

救援岩手本部を訪問し、活動支援金、本部事務所の寄せ書きを贈呈。

岩手ろう協会会長らから現状報告を受けた



後、第2回地域本部会議に参加。支援岩手本部構成団体の他、県障がい保健福祉課長、情報センター長、青森県聴覚障害者情報提供施設長も出席。



【所感】

震災発生当初のころは食料に対する要望が多かったのが、最近は生活用品に対する要望が増え、物資のニーズが変わってきている。

3県とも地域本部は休む暇もなく頑張っており、大変疲れています。特に中央本部から常に声掛けをして、地域本部の支援をしていく必要がある。

集会への参加者からは「遠いことからありが

とう。」などと、逆にねぎらわれ、理事長の訪問は被災者を元気づけた。

心のケアは専門家だけではなく、地域のろう者・関係者が定期的に集まるサロンのような集会でお互いに支えあう場所を提供することも大切と感じた。

メールや電話通訳等での情報交換より、実際に顔を合わせての意見交換と今後の支援活動の共通認識を持つことが必要と感じた。

☆東日本大震災聴覚障害者救援中央本部第2回会議を開催



5月12日(木)18時30分～21時、東京都港区立障害保健福祉センター ヒューマンぷらざにおいて、救援中央本部第2回会議が開かれ、3県の救援本部の方も出席しました。

各県の状況報告、各担当の報告の後、今後の活動などについて話し合いました。

☆手話通訳活動報告

救援中央本部では、被災地への手話通訳者やろうあ者相談員の派遣調整を行っています。

現在、派遣要請があったのは救援宮城本部、石巻市、東松島市、多賀城市、仙台市、名取市、亘理町(いずれも宮城県)からで、3月30日から5月13日までに、北海道、秋田県、山形県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、京都府、大阪府、和歌山県から、延べ36名の手話通訳者、ろうあ者相談員が派遣されました。

被災地へ派遣された手話通訳者らは、行政の窓口で罹災証明や仮設住宅入居等の手続きのための通訳を行ったり、県内で被災した聴覚障害者の安否確認や避難所回りをし、ニーズに応じて補聴器等の救援物資の申請などを行っています。震災後、避難所で生活していた聴覚障害者が県外の親戚等のところへ引っ越す例も出てきており、安否確認ができていない聴覚障害者に対しての追跡調査を行ったり、震災のために職を失った聴覚障害者の労働状況の調査を始め、再就職のための支援も行っています。



長期化する被災地支援の中で、手話通訳設置事業が実施されていない地域など、聴覚障害関連事業が不十分な地域に対してどのような取り組みをしていくのかが、今後の課題となっています。

救援中央本部手話通訳担当

☆「宮城への物資支援をお考えの皆様方へのお願い」

これまでに多くの方々から様々な物資を送ってくださり、またいろいろな形での励ましをくださり、深く感謝いたしております。おかげ様で、私ども皆元気づけられ、力を合わせて日常生活への復帰に向けて、少しずつではありますが、歩みを進めているところです。ただ、現地の状況は毎日変わっており、その時期によって必要な物および必要数量も変わっております。

したがって大変お手数ですが、これから宮城県へ物資支援をしようと考えてくださっている方は、物資を送る前に、救援宮城本部にご連絡をしてくださるようお願いいたします。

【救援物資受付専用】 help.shinsai@gmail.com

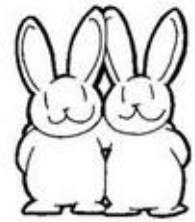
皆様のせっかくのご厚意を無駄にさせないためにも、何卒、ご協力をお願いいたします。



☆日本財団のブログに福島県本部が掲載される

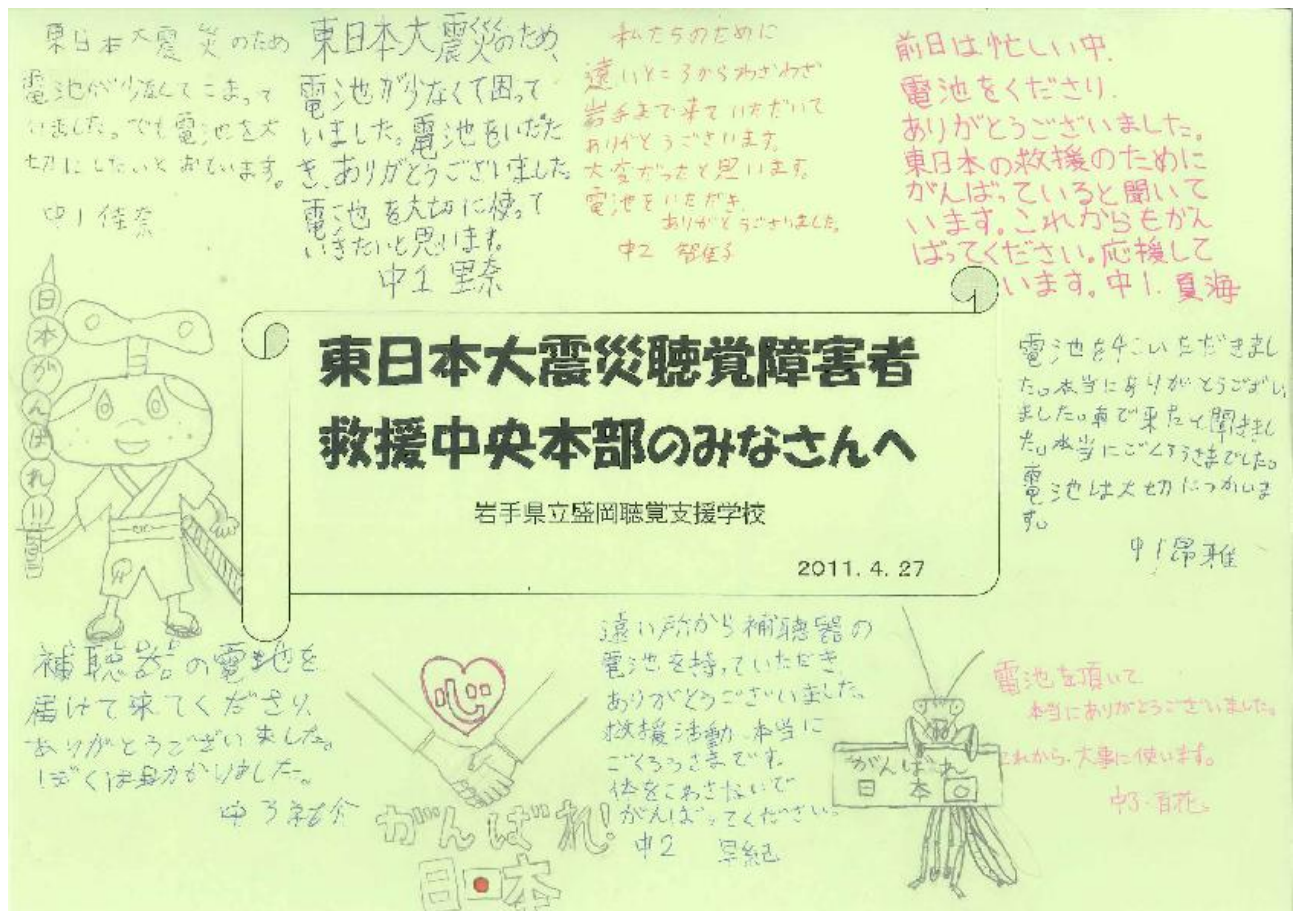
日本財団広報チームが 5/10 にブログに掲載したの震災ニュースに、「心のケアを重点に 地震・津波・原発事故フクシマの障害者支援」というテーマで、福島本部の聴覚障害者被災者支援の状況がとりあげられています。

(<http://blog.canpan.info/koho/archive/1434>)



☆盛岡ろう学校の子供たちからお礼の寄せ書きが届く

救援中央本部の活動の一環として、4/13 に盛岡聴覚支援学校を訪問し、補聴器の電池などの物資を渡しましたが、それに対しての校長からのお礼の手紙と、児童・生徒たちからの元気な寄せ書きが届きました。



☆☆☆ 義援金のお願い ☆☆☆

被災地の聴覚障害者ら仲間の支援のために皆様のご協力をお願いします。

- ① 銀行：みずほ銀行 江戸川橋支店 普通預金 口座番号：1511276
 名義：(財)全日本聾唖連盟 災害救援基金 代表 石野富志三郎
 (ザイタンホクジンゼンニホウアルンメイ サイガ イキュウエンキンダ イョウ インノブサブリウ)
 ※みずほ銀行内(本・支店間)での振込の場合、振込手数料は免除されます。
- ② 郵便振替：記号 00160-9-166840 名義：(財)全日本聾唖連盟
 ※通信欄に「東日本大震災の災害義援金」とご記入ください。

義援金総額 **19,279,432 円** (518 件、2011 年 5 月 11 日現在)



イラスト協力：芦原利江